

ベネッセハウスミュージアム新展示のお知らせ 2019年1月25日（金）より

This Must Be the Place（きっとここが帰る場所）＝鄙ぶり -岡崎乾二郎新作とベネッセアートサイト直島-

ベネッセハウスミュージアムでは、岡崎乾二郎がベネッセハウスミュージアムのために制作した新作の初展示に合わせ、コレクションの一部を展示替えいたします。絵画、彫刻、建築の他、ランドスケープデザインや批評、キュレーション、絵本制作、教育プロジェクト等、ジャンルを超えて多様な活動を展開する岡崎乾二郎が、直島の風景からどのような場所性を感じとり、絵画作品に反映させたのか、また既存のコレクションに、いかなる新たな読み取りの文脈や視点を投影したのか。

「鄙ぶり」をキーワードに、改めてベネッセアートサイト直島を取り巻く風景と場所の意味について考察する機会になれば幸いです。

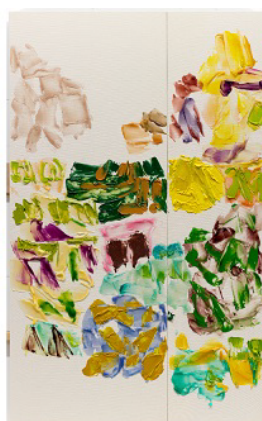
プレス関係者の皆様には、広く告知いただきたく、お願い申し上げます。

「鄙ぶり」とアルカディア。鄙ぶりとは一般に田舎風を意味し、一方で、ヒナとは別の場所＝地方（鄙）からきた、かそけく、麗しく、稀有なものである。田舎とよばれる周辺に、中央/地方、天/地、生/死という対立を垂直に貫き、無効にしてしまう聖なる輝き＝もう一つの別の場所を発見する。その意味で鄙ぶりとアルカディアは同じ神話的な構造を共有している。魂はこの輝きのなかに住んでいる。この輝きを通して、コレクション作品をみる」。

（岡崎乾二郎）



サイズ：(H)210cm x (W)460cm x (D)7cm
マテリアル：アクリル、カンヴァス
制作年：2017



轟は聞こえても言葉を話すのは聞いたことがない。髭がのびても赤ん坊のように泣く。鬘を逆立て地上へごころ落ちていく、無知から生じた過ち。遠くから射かけ矢尻を残したのも知らず憐れみもないアチスキタ。海辺の椰子を飲み尽くしてしまった焔カヒコネ。煙のようにみえる尻尾、ダラリとしたモノグサ。金色の鱗で被われた顔貌神々しさ目を奪われる。この鄙ぶりの土地を去り、愛する岸辺を逃れ、でも未来は探しに行かなくても織毛をなびかせ畑の畝に並んでいる。花が咲いたら蜂たちもずっと上天氣が続くの願うはず。蜜でねっとりした蜂の巣に残るのはだれ？

（左）

賓として眺め聞いたものは（そら恐ろしいことでも）目新しく耳新しく、何も知らないから旅人は一切を受け入れる。そら彩り丘染めるアメノワカヒコ。過去に花を咲かせ石に枕して眠る。あなたは何者ですか？不意にワキ赤ツグミ、翼の力を失って海辺の草地めがけ石のように落下した。

（右）

施設情報 ベネッセハウスミュージアム

開館時間 8:00~21:00（最終入館 20:00）年中無休（メンテナンス休館有り）

鑑賞料金 1,030円（15歳以下の方とベネッセハウスにご宿泊のお客様は無料）

所在地 〒761-3110 香川県香川郡直島町琴弾地 Tel. 087-892-3223（9:00~20:00）

ベネッセアートサイト直島

〒761-3110 香川県香川郡直島町 850-2 Tel 087-892-2887 Fax 087-840-8277

E-mail BASN-press@mail.benesse.co.jp <http://www.benesse-art.site.jp/>

取材・掲載に関する問い合わせ: 阪上/ステンランド

【関連企画】

岡崎乾二郎トーク

This Must Be the Place (きっとここが帰る場所) = 鄙ぶり —岡崎乾二郎新作とベネッセアートサイト直島—

岡崎乾二郎の新作初公開と、作家独自の視点によるコレクションの一部展示替えに伴い、トークイベントを開催します。本展示タイトルや、「鄙ぶり」という主要なキーワードについて、また併せて展示される岡山出身で20世紀前半アメリカを拠点に活動した国吉康雄の作品から現代アート作品に至るまで、作家自らの言葉で語ります。

トークイベント終了後、岡崎氏へのインタビュー取材が可能です。取材、掲載の際には下記、ベネッセアートサイト直島広報担当者までご連絡下さい。

日時： 2019年2月1日(金) 14:00～16:30 (開場:13:30～)

場所： ベネッセハウスミュージアム 2F レクチャールーム

【アーティストプロフィール】

岡崎乾二郎

造形作家 武蔵野美術大学客員教授

1955年東京生まれ。1982年パリ・ビエンナーレ招聘以来、数多くの国際展に出品。総合地域づくりプロジェクト「灰塚アースワーク・プロジェクト」の企画制作、「なかつくに公園」（広島県庄原市）等のランドスケープデザイン、「ヴェネツィア・ビエンナーレ第8回建築展」（日本館ディレクター）、現代舞踊家トリシャ・ブラウンとのコラボレーションなど、つねに先鋭的な芸術活動を展開してきた。東京都現代美術館（2009～2010年）における特集展示では、1980年代の立体作品から最新の絵画まで俯瞰。2014年のBankART1929「かたちの発語展」では、彫刻やタイルを中心に最新作を発表した。長年教育活動にも取り組んでおり、芸術の学校である四谷アート・ステディウム（2002～2014年）を創設、ディレクターを務めた。2017年には豊田市美術館『抽象の力—現実（concrete）展開する、抽象芸術の系譜』展の企画制作を行なった。

著書に『抽象の力 近代芸術の解析』（亜紀書房、2018年）、『ルネサンス 経験の条件』（文春学藝ライブラリー、2014年）、『芸術の設計—見る/作ることのアプリケーション』（フィルムアート社 2007年）。

『ぼぱーぺ ぼぴぱっぷ』（絵本、谷川俊太郎との共著、クレヨンハウス 2004年）。

ベネッセアートサイト直島

〒761-3110 香川県香川郡直島町 850-2 Tel 087-892-2887 Fax 087-840-8277

E-mail BASN-press@mail.benesse.co.jp <http://www.benesse-artsite.jp/>

取材・掲載に関する問い合わせ: 阪上/ステンランド